

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200465		
法人名	株式会社バリアフリーLife		
事業所名	グループホームひだまりとうげ庵		
所在地	佐賀県唐津市山田4025		
自己評価作成日	令和 7 年 2月1日	評価結果市町村受理日	令和7年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 7年 2月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした環境の中で家族様との絆を特に重視し運営を行っています。6月10日家族様同士の触れ合いもコロナで疎遠になっていた為家族会を行い、運動会を開催しました。また、施設での手作りおやつも食べて頂き色々コミュニケーションも取れ、安心していただけたかと思えます。月2回の手作りおやつも季節の食べ物を意識し提供し、月1の施設考案メニューもあります。しっかりと歩行できる方は天気がいい日に外へ散歩や座りっぱなしの方は下肢・歩行運動等その方にあった生活スタイルを重視しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな山間部に立地し、ホーム周辺はのどかな田園風景が広がっている。ホーム内には暖かな日差しが差し込み、季節毎の飾りつけや行事の写真が掲示されている。気候が良い日にはホーム周辺を散歩したり、ドライブに出かけるなど、日常的に外出支援を行っており、毎月行う手作りのおやつも入居者の楽しみにつながっている。法人全体の取り組みとして、サービスに関するアンケートを定期的実施しており、アンケートの内容をもとに対策等について検討し、ホームの運営に反映している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	寄り添いという理念を掲げその人らしい生活が出来様援助している。 事業所会議にてカンファを行い、同じ価値観で理念を共有し実施している。	理念をホール内に掲示し、いつでも確認ができるようにしている。ホームの目標や理念に沿った支援ができていないか、シートを活用して定期的に振り返りを行い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩している時・施設の通りの掃除をしている時等地域の皆様と挨拶や運営推進会議での地域交流を行っている。	ボランティアの受け入れや、地元の小学校からの依頼で、職員が外部講師として福祉や介護に関する授業を行っている。地域の方から花の苗や野菜のおすそわけがあるなど、日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて介護分野等の情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表・御家族様代表の方等貴重なご意見を朝礼や事業所会議にて報告しサービス向上に活かせる様心掛けている。	2か月に1回開催し、地域住民、家族代表、行政職員などが参加する。入居者の状況や日頃の取り組みなどについて伝え、必要な報告を行っている。議事録は玄関に設置し、来訪者がいつでも閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き相談・報告を行っている。市の方へ毎月入居情報を提供している。また毎月介護相談員の訪問がある。	市の担当者は運営推進会議にも参加しており、日頃から相談や報告がしやすい関係が構築できている。事故報告の際は必ず役所に出向き、担当者に説明を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の身体拘束の社内研修を行い、普段より適切なケアを行っている。	法人全体で定期的に委員会を開催しており、ホームのケア会議で委員会の内容を周知している。現在身体拘束に該当する事案はなく、玄関も施錠せずに自由に入出りができるなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い、職員の意識を高めている。研修に参加した職員は朝礼や事業所会議等で事例やチェックポイントを把握して業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や社内での勉強を行っている。参加できなかった者には研修報告を行い確実に意識の共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはお客様や御家族様が納得して頂けるまで時間をとり誤解や不安が残らない様にといる。年に1～2回御家族様アンケートを実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関に御意見箱の設置、毎月の請求書と一緒に御意見聴取の用の用紙を入れ送付、面会や担当者会議時の意見聞き取り等を会議で共有している。	玄関に意見箱を設置している他、家族の面会時等に意見を聴取している。法人全体でサービスに関するアンケートを実施しており、出た意見は法人全体の経営会議で協議した後、ホームの運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員と面談・対話の機会を設けている。また法人内にも相談員を配置し気軽に相談できる体制がある。	管理者は定期的に職員と面談を行い、意見を聞いている。会議や勉強会では職員からの意見や提案もあり、発言しやすい雰囲気である。法人内に相談員を配置し、必要に応じて相談ができる仕組みもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員とのコミュニケーションを図り現在思っている事を吸い上げ、可能な限り働きやすい現場にできる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時は新入社員研修にて教育を開始し個々の力量を図りながら研修や勉強に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を通じて情報交換やサービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問で関係をつくりしっかりと行っている。これまでの生活環境・趣味嗜好・仕事等を把握し本人様とコミュニケーションを取りながら、本人様が安心してもらえる様努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問・電話などにより小まめな関係を深める様している。看護面にかんしては当事業所の看護師が主治医への聞き取りを行う等安心して利用していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細かい対応を取りながら、当事業所も視野に入れ、お客様にあった柔軟な対応を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様を人生の先輩として尊敬の気持を忘れず、相談・指導・協力を基本として共に生活していくことを徹底している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の負担や想い、お客様の生活や想いの両面を常に意識して最良の支援方法を一緒に相談して決定していく様にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で窓越し面会や一時期直接面会支援などに努めている。可能な時は誕生日会参加のお声掛けをしている	家族以外にも、親戚や友人の面会もある。年賀状のやりとりを援助したり、職員と一緒に親族の葬儀に参列するなど、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係に常に目を配り、時には通訳となって一人一人が生活できるように援助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになられたときは葬儀に参列したり初盆参りに訪問させて頂いたりと関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の摂取状態によっては調理の仕方や味付け等の希望に沿うように心掛けている。	日常生活の中で意見を聞き取っている。意向の把握が困難な入居者については、在宅時の生活の様子について家族から聞き取り、ケア会議で情報を共有しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に徹底して行うようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が月々の観察を十分に行っている。また毎月の事業所会議にてお客様についてのカンファレンスを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議にてよく話し合い、プラレニングしている。御家族様・本人様にしっかり説明し意見や要望を聞き取り、必要であれば何度も聞き取って納得のいくプラン作りができています。	本人や家族の意見をふまえ、計画作成担当者と担当職員が協働しながら介護計画を作成している。往診時に医師から意見を聞き取り内容に反映させるなど、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々には生活援助支援記録に記入している。月末にはプランの評価を行い、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や散歩等の要望に柔軟に援助している。御家族様の要望には施設内にてよく話し合い柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて協力機関に協力求め応じて頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様のかかりつけ医を設けて、定期的に往診・受診をしている。協力医療機関とは24時間体制で契約している	協力医療機関は主に往診での対応となるが、元々のかかりつけ医の継続も可能であり、他科受診含め通院時はホームで支援している。家族が同行できない場合は、受診後に電話で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理や医療活用の支援をしている。小さな気づきも看護師に報告し早期対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はムンテラの機会を作って頂き、ご家族様も安心して治療できるよう情報提供、相談しやすい場面を作っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、看護師、介護士、家族様と情報交換し、共に変化に備え検討し準備している	看取り介護に対応しており、入居時に重度化及び看取りの指針に沿ってホームの方針を説明している。救急搬送の希望の有無や緊急時の医療機関への連絡体制について、一目で分かるように予め一覧表を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの整備をして全職員が対応できるよう訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナの影響で避難訓練が厳しい時もあったが消防署と連携をとりあい後日実施することができた	火災を想定した避難訓練を年2回実施し、消防署の立ち会いも要請している。その他、BCP計画(業務継続計画)の検討や、食料等の備蓄も定期的に確認している。地元消防団や地域住民の参加も検討しているが、実現までには至っていない。	今後も引き続き、訓練時には地元の消防団や地域の住民等に呼びかけを行い、参加に繋がることで、災害時における地域の協力体制が構築されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人が人生の先輩として尊敬し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。	言葉かけについての勉強会を行い、普段のケアの中で気になった時は職員同士で注意している。排泄時の声かけに配慮したり、オムツ交換時に臭気が漏れないように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が話そうとされているときはゆっくりと待つ。また声をしっかりと出して頂ける様な声かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のやりやすさに合わせるのではなく、お客様にあわせている。どんなに忙しい時でも話しかけられたら向き合い話をきく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の希望にあった髪型や服装をして頂き、自分では出来ないところを介助している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に食べ物の好き嫌いを聞き取り、状態に合わせた食事形態で提供している。片付けが出来る方には自分の分は自分で下膳していただいている	入居者の重度化に伴い、食事を一緒に作る事は困難であるが、食べたいメニューのリクエストに応えたり、月に2回手作りのおやつを提供するなど、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量の状態を記録し、情報の共有をして個々のケアに取り組んでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい、歯磨きを行っている。出来ない方は援助している。食事前には体操や口腔マッサージを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。一人一人の排泄パターンの把握に取り組んでいる。	排泄表を活用しながら入居者個々の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。入院中にオムツ対応だった方がトイレでの排泄に移行できた事例もあり、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	勉強会にて排泄のメカニズムや便秘対策等の知識を向上させている。出来るだけ薬に頼らない様に乳酸菌や食物繊維の提供をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お湯の温度、入浴時間を一人一人の希望に合わせている。季節に合わせて柚子を入れる事もある	基本は週に2回の入浴としているが、曜日は決めておらず、柔軟に対応している。時間を決めずに1日を通して入浴することができ、入居者個々の意向に沿って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを作り、安眠につなげている。安眠を得られる様に個別で湯たんぽや室温調整を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様一人一人の薬の効能をしり医師の指示通りに内服できるよう支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の個々の楽しみ、役割が持てる様に入居者の意思を尊重したり、職員から情報を提供して張り合いのある生活につながる様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い日にはドライブや散歩を行っている。動ける方と一緒に外食に行くこともある	日常的にホーム周辺の散策を行っており、季節に応じてお花見やドライブに出かけている。入居者の希望に沿って個別に外出する事もあり、家族の支援により外出や外食をされる事もある。戸外に出かける事で入居者の楽しみに繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があった場合、可能な限り速やかに対応している。訴えのない方にも声かけを行い外出時に買い物を楽しんで頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙等自由に利用できるよう訴えがある時はすぐに対応している。こちらから声かけおこなう場合もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的でカーテン、家具等を暖色系としており、穏やかな雰囲気を出している。施設内ベランダに季節の花や野菜を植えている。室内には温湿度計を利用し、快適な空間作りに取り組んでいる	共用ホールには適度に日差しが入り、明るい雰囲気となっている。廊下やホールには季節毎の飾りつけや行事の写真が掲示されており、目で見て楽しめる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座ってお話できる大きなソファを置き広いホールで穏やかに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や毛布などの生活用品を自由に持ち込んでいただき、その人らしい部屋作りをしている	ベッドや家具の位置は本人の生活状況をふまえ、家族と話し合って決めている。馴染みのある私物を持ち込む事ができ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計や随所に手すりを設置し、自立支援援助を目指している		